

No. 120

2026年4月号

富山市民病院マガジン「きよら」

●題名の「きよら」は病院の清潔なイメージや医療の透明性、そして心の美しさを表し、柔らかくやさしい書体はやすらぎと信頼を表現しています。

きよら

特集

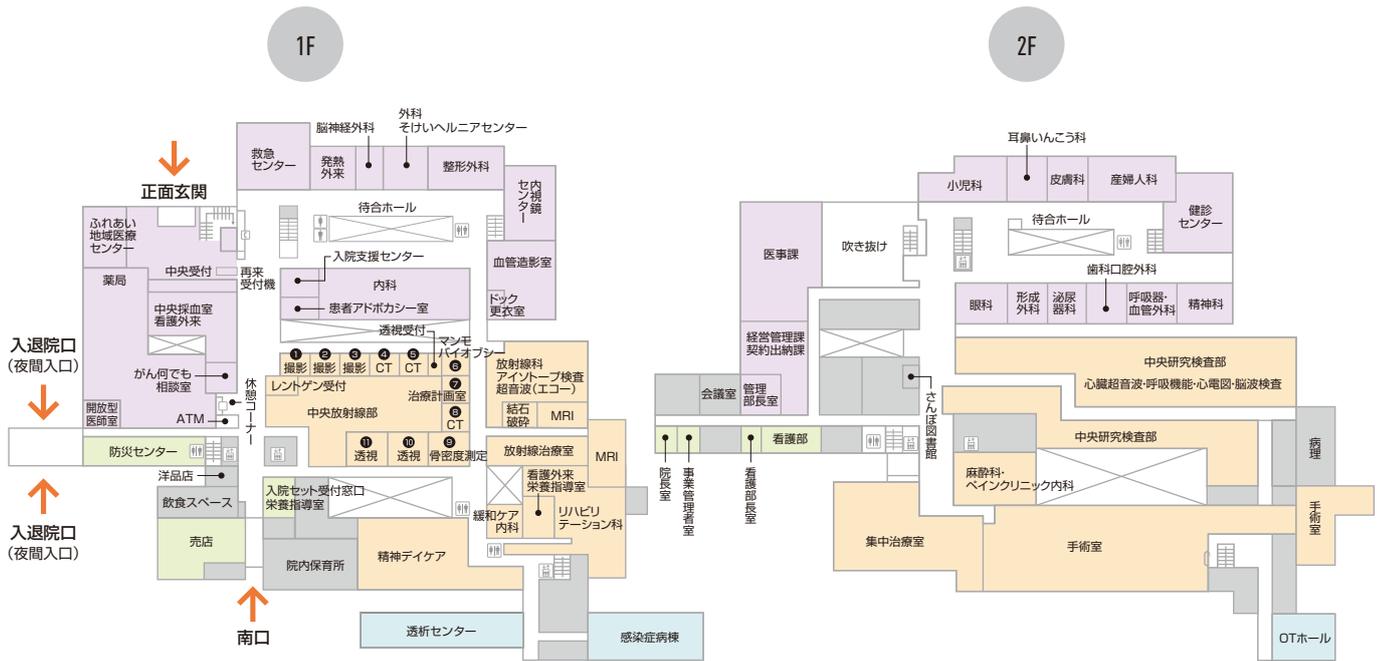
時代に合わせてアップデートする
「小児科」の現在地

特集

障害のある人の歯を守る
全身麻酔による治療の場を

Floor Guide

案内図



	外来診療棟	西病棟	東病棟	南病棟
8F		心臓リハビリテーション室	病室 東801~827	8F
7F		病室 西701~723	病室 東701~725	7F
6F		病室 西601~621		6F
5F		病室 西501~526	病室 東501~527	5F
4F		病室 西401~426	4階リハビリテーション 治験支援センター	病室 南401~425
3F	講堂 図書室 医局	病室 西301~320	病室 東301~325 外来治療室	病室 南305~321
2F	管理部長室 経営管理課 契約出納課 医事課	事業管理者室 院長室 看護部長室 看護部	検査部 麻酔科 ペインクリニック内科 集中治療室 手術室 感染防止対策室	活動療法棟 OT ホール
1F	玄関ホール 総合案内 中央受付 ふれあい地域医療センター 中央採血室 看護外来 薬局 がん何でも相談室 開放型医師室	救急センター 発熱外来 脳神経外科 外科・消化器外科・乳腺外科 そけいヘルニアセンター 整形外科・関節再建外科 内科 内視鏡センター 血管造影室 アドボカシー(患者支援)室 医療安全管理室 入院支援センター	売店 防災センター 栄養指導室 レントゲン 放射線科(治療・診断) リハビリテーション 精神デイケア 緩和ケア内科 看護外来 栄養指導室	感染症病棟 透析センター
B1F		薬品管理事務室 霊安室 剖検室	中央リネン室 栄養科	

より

No. 120

2026年4月号

Contents

発行

富山市立富山市民病院
広報委員会

〒939-8511
富山市今泉北部町2-1
TEL. 076-422-1112
FAX. 076-422-1371
<https://www.tch.toyama.toyama.jp/>



富山市立富山市民病院



日本医療機能評価機構

特集 Special Feature

時代に合わせてアップデートする 「小児科」の現在地

[インタビュー] 小児科部長／和田 拓也 医師

02

子どもと親の気持ちに寄り添う 「子どものこころの外来」

[インタビュー] 小児科主幹／仲岡 佐智子 医師

04

虐待を防ぐため病院が取り組む 子どもと家族へのサポート

[インタビュー] 小児救急看護認定看護師／竹内 宏至 主查看護師
医療相談室主査／赤川 幸子 社会福祉士

06

特集 Special Feature

障害のある人の歯を守る 全身麻酔による治療の場を

[インタビュー] 歯科口腔外科部長／朽名 智彦 医師

麻酔科医長／津田 翔 医師

歯科口腔外科主査／友山 ひかり 歯科衛生士

東病棟3階／矢野 瞳 主查看護師

無関 安理奈 主任看護師

手術滅菌管理科／米山 実香 主查看護師

八倉巻 理沙 主任看護師

08

Topics

病棟の個室が増えました

13

Message

院長退任の挨拶／家城 恭彦

13



小児科部長
和田 拓也
医師

特集

時代に合わせてアップデートする 「小児科」の現在地

富山医療圏の小児医療提供体制を守るため、時代の変化に合わせてその役目をアップデートしてきた富山市民病院の「小児科」。その現在地を、まずは小児科部長の和田医師に聞く。

富山医療圏で存在感を発揮

Q. 富山市民病院の小児科にはどんな特色がありますか？

和田 当院小児科では、一般診療だけでなく、神経循環器、アレルギーなど、それぞれのサブスペシャリストによる診療を提供しています。

私自身、もちろん様々な疾患に対応していますが、専門は小児アレルギーで、アレルギー疾患療養指導士の資格を持つ看護師や、栄養士、薬剤師とともにチームで診療に取り組んでいます。食物アレルギーで完全除去が続いている、何を摂取させればよいか分からないなどお困りごとがあれば、ぜひかかりつけ医を通して当院にご相談ください。

院外においては、「富山市まちなか総合ケアセンター」に設置されている病児保育所を利用する病児に医療的な処置が直ちに必要になった場合も、当院の小児科が対応しています。

そして2022年度から、当科の二次輪番日が増えるのに際し、小児科医が4名に増員されました。感染症など、急性期疾患で入院が必要なお子さんを速やかに受け入れられる体制を整えています。

小児医療集約化の流れ

Q. 二次輪番体制のこれまでの流れについて教えてください。

和田 「二次輪番（二次救急病院群輪番制）」とは、紹介または搬送される形で来院する二次救急医療機関が休日や夜間に当番制で救急患者を受け入れ、24時間365日の救急医療体制を確保するものです。

小児科医師の不足を背景に、労働環境を改善するため20年以上前から国をあげて医療提供体制の見直しが進められてきました。

県内では、富山大学附属病院、県立中央病院、富山赤十字病院、済生会富山病院と当院の5施設で二次輪番体制を維持していました。2021年に済生会富山病院が小児科を廃止し、翌年には、富山赤十字病院で担当している中学生までの小児輪番が県立中央病院と当院に振り分けられる形で集約され、現在、富山大学附属病院以外では、県立中央病院と当院で夜間の小児救急医療を担っています。

地理的条件や人口動態などを考慮しながら、小児医療は効率化を図り、集約に向かっていくのが全国的な流れです。

Q. 夜間はどのような症状の患者さんが多いのでしょうか？

和田 輪番日には、入院治療を要する紹介患者さん、アナフィラキシーやケガも含めて様々な疾患に対応していますが、けいれんのお子さんが救急車で運ばれてくるケースが多いですね。お子さんの高熱による熱性けいれんは、保護者の方にとっても戸惑いが大きいと思います。そういった保護者の不安にも配慮した対応を心がけています。

もし、他の症状でも受診を迷う場合は、子ども医療相談ダイヤル「#8000」に電話をかけて専門家に意見を求めることもおすすめします。

子どもの成長を支える喜び

Q. 小児科医のなり手不足も耳にしますが、先生はどんなところにやりがいを感じられますか？

和田 小児科では、生まれたばかりの赤ちゃんから中学生までのお子さんたちを診ています。その間の成長、発達ぶりと言えばご存じのとおりで、「あんなに小さくて弱々しかったお子さんが元気に育って…」と、感慨深い気持ちになることもしばしばです。

また、医師としては、大人が臓器別に各診療科に分かれるのに対して、小児科は全身を診るといふ難

しさとやりがいがあると考えます。

当院では、富山大学附属病院の小児科とも連携し、研修医の医学教育や臨床研究にも積極的に取り組んでいます。

Q. 今後、どんなことに力を入れていきたいですか？

和田 少子化が進む一方で、ニーズが高まっている分野もあります。それが、お子さんの「こころ」の問題です。

当院では、2025年5月から「子どものこころの外来」を開設しました。このあとは仲間医師が、当院の特色の一つとなっているこの外来について紹介します。



子どもと親の気持ちに寄り添う 「子どものこころの外来」

富山市民病院では、2025年5月から週2回、「子どものこころの外来」を開設し、様々な理由で生きづらさを抱えている子どもたちと、その保護者のこころに寄り添う診療が行われている。外来を担当する仲岡医師にインタビューする。

小児科主幹 仲岡 佐智子 医師

ニーズが高まり続ける 子どものこころのサポート

Q. 富山市民病院の「子どものこころの外来」について紹介ください。

仲岡 去年5月から、同じく子どものこころの専攻医である和田優子医師とともに、火曜と木曜の午後完全に完全予約制で「子どものこころの外来」の診療にあたっています。

当院への紹介理由で最も多いのは、未就学児・小学生以降ともにADHD（注意欠如・多動症）の疑い、不登校や登園しぶりで、その他にも癇癪やチック、不眠、不安神経症や学習障害の疑い、発達相談などで来院されています。

Q. 先生はなぜ、子どものこころの問題に取り組まれるようになったのですか？

仲岡 私は一度当院を離れているのですが、2021年に働いていた当時、一般的な身体疾患を診ているなかで、心身症や不登校に悩む患者さんが多いなと感じていました。

2022年に富山赤十字病院に異動したのですが、ちょうどその頃、富山県で子どものこころを支える体制の充実が検討され、県リハビリテーション病院・子ども支援センターから専門医が週1回、富山赤十字病院に診察に来るサテライト外来が開設されたのです。その診察や、同じ年に富山大学で設立された「子どものこころと発達診療学講座」の外来に陪席するなどして、2024年に当院に戻った今も勉強を重ねているところです。

Q. それだけ需要が大きくなっている分野なのですね。

仲岡 「心身症」は、心理的・社会的因子が影響して引き起こされる様々な身体症状の総称ですが、心身症の患者さんに出会うことも多いです。日々の報道でもご存知のとおり、不登校の生徒数や発達特性のため特別な指導を必要とする生徒数は増えていますし、時に自殺を考えるまで追いつめられる子ども



の数も増えているという現状があります。

国立病院機構富山病院や高岡市きずな子ども発達支援センターも含め、専門医のいる病院は初診にこぎつけるまでに何か月も待たなければならぬほど、県内にもお困りの方がたくさんいらっしゃるのです。当院でその一端を担うことで、子どもたちの困り感の軽減や専門施設の負担軽減に繋がらないかと考えています。

親や教師ではない大人の理解者

Q. どのように患者さんに向き合っていますか？

仲岡 すべてがすぐに解決に向かうものではないのですが、子どもたちと一緒に過「しやす」くできる「作戦」を立て、一歩ずつ進んでみることを考えています。親や教師でない大人が、理解者として話を聞く場があることは大切だと思っています。小児科医は、そんな存在になれると信じています。

家から出て、外来に来て話をすることが社会との繋がりの一つになったり、気分転換になるだけでもプラスと言って良いのではないのでしょうか。

Q. 先生ご自身も子育て中だそうですね。

仲岡 はい。私も3児の母で、やはり学校や社会では、画一的な目で評価されがちだと感じることがあ

ります。辛い時に親が伴走してくれた経験は、きつというかお子さんの支えになる田がくるはずですよ。私たちはお子さんの味方であるとともに、悩んでいるお父さんお母さんが、お子さんの良いところにもう一度目を向けられるような時間を作れたら嬉しく思います。

お子さんの良いところを

Q. 「子どものこころの外来」を受診したい場合は、どうすればよいのでしょうか？

仲岡 「心身症」と呼ばれる診断になるお子さんたちは、実際「おなかが痛い」とか「頭が痛い」とか「食欲がない」といった身体の症状に表れるので、最初はやはりかかりつけ医を訪れることが多いようです。また、かかりつけの先生の普段の診療の中で、発達特性に気が付かれる場合もあります。

ただ、たくさんのお患者さんを診ておられるクリニックの診療の中では、ゆっくり時間をとって診ていくということが難しい場合もあるのです。心の問題が関係しているのでは、と疑われる際や発達特性が気になる場合は、当院に繋いでいただければと思います。

困り感があるなかでも、ぜひ一緒にその子らしく成長していける方法を見つけたいと思います。



虐待を防ぐため病院が取り組む 子どもと家族へのサポート

虐待によって心身に大きな傷を残したり、命さえ落とす子どものニュースが全国各地を絶たない。富山市民病院では「子ども・家族支援チーム」が中心となり、子どもを虐待から守る取組を行っている。メンバーの2人に話を聞いた。

小児救急看護認定看護師

竹内 宏至^{たけうちひろし}
主査看護師



子どもと家族に

やさしい病院でありたい

Q.「子ども・家族支援チーム」について教えてください。

竹内 以前は「院内子ども虐待対応チーム」として活動していたのですが、子どもと家族にやさしい病院でありたいとの思いから、2021年度に「子ども・家族支援チーム」と名称変更されました。

小児科、産婦人科の医師や看護師、助産師、ソーシャルワーカーがチームとなり、起きてしまった虐待事案に対応するのはもちろん、虐待の予防にも力を入れています。

Q. 竹内さんは「小児救急看護認定看護師」でいらっしゃいますか？

竹内 はい。「小児救急看護認定看護師」は、救急時の子どもの病態に応じた迅速な対応やトリアージの実施、子どもの事故予防やホームケアの指導を行うとともに、育児不安や虐待への対応、子どもと親の権利擁護についても深く学んでいます。

日頃、集中治療室で勤務しているのですが、外来や救急で虐待が疑われる患者さんに出会うと、こくなる前に何かできたのでは…?と自分に問うこともあります。どんなお子さんも、親から無条件に愛されて健やかに育ってほしいというのが、私の願いです。

妊娠期から切れ目のない支援を

Q. どのように予防対策されているのですか？

竹内 家族が不適切な養育に至る要因は様々ですが、育児不安も一つの要因と言われています。その要因を一つでも取り除くため、予防接種や健診で小児科外来を受診される際に、お母さんのお悩みに耳を傾けたり、アドバイスを始めたりしています。なるべく早くから信頼関係を築き、妊娠期から切れ目のない育児支援をすることが大切だと考えています。

Q. 社会福祉士の立場としては、どんなサポートをされていますか？



医療相談室主査

赤川 幸子 あかがわ ゆきこ
社会福祉士

赤川 社会福祉士は、虐待を受けたり、様々な理由で家庭で育てることができない子どもの一時的保護や施設への入所、安全確認、子育て支援などに関わる事務手続きを、市町村の福祉担当部署や児童相談所などと連携して行います。

虐待の背景にある貧困や保護者のメンタルヘルス、孤立感にも寄り添い、支援機関へつなぐためのサポートをするのが役割です。いつでもSOSを出して頼って良い場所がある、ということをお伝えしています。

親の気持ちと子どもの安全

Q. 難しさを感じるのどんな場面でしょうか？

赤川 親には親の気持ちがあり、一方で、まだ意思表示ができない、または判断がつかない年齢のお子さんの権利や安全について考えると、何が正しいのか、本当に難しいと感じます。ただ、私ひとりで判断するわけではなく、チームでカンファレンスを行い、情報共有や意見交換を通して、より良いサポートを模索しています。

Q. お子さんやご家族とは、どのようにコミュニケーションのきっかけを作るのですか？

竹内 助産師の力も借りて、継続して育児支援が必要と思われるご家族を知らせてもらい、乳児健診や予防接種の機会に、私たちから養育者に声をかけています。

他者に入ってこられるのが嫌だという方もいらっしゃると思うのですが、外来受診が途絶えてしまった方に「最近いかがですか？」と電話をすることもあります。気にかけている人間がいるということを知っていただき、相談しやすい雰囲気心がけていきます。

育児不安の軽減が虐待予防に

Q. 相談を待つのではなく、積極的に声をかけられるのですか？

竹内 現代は核家族が進み、地域の繋がりも希薄になっている一方、インターネット上には情報が溢れている時代です。「何が正しいのかわからない」と孤独に悩んでしまうときは、相談していただければ、医療機関として適切な情報を選んでお伝えすることができると思います。

Q. チームの影響は院内に広がっていますか？

竹内 チームに関係なく、どの職種のスタッフも子どもや親からのサインに気づき、適切な行動がとれるよう、マニュアルを作成しました。向き合った時に感じる不自然さが、子どもを虐待から救う最初で最後のチャンスかもしれません。

「本当に虐待かどうかわからない」、「他の患者のこともあり時間がない」、「面倒なことには関わらないくない」、そんな気持ちを乗り越えて、誰もが親子の助けとなるよう職員研修も行い、引き続き病院全体で支援に取り組んでいきたいと思っています。





特集

障害のある人の歯を守る 全身麻酔による治療の場を

身体・知的・精神障害などにより、一般の歯科医院で治療が難しい場合、むし歯や歯周病などを治したい患者さんは一体どうしているのか？富山県歯科保健医療総合センターと富山市民病院の連携から、富山県内の実情に迫る。院内の関係スタッフらに集まってもらい、話を聞いた。

歯科口腔外科の役割

Q. 富山市民病院の歯科口腔外科では、日頃どのような治療を行っているのでしょうか？

朽名 歯科口腔外科は歯だけでなく、歯肉や唇、舌、頬の粘膜、顎や唾液腺といった口の周りにある臓器の疾患を対象に、手術を主体とした治療を行います。また、当院は急性期医療機関として、顎や顔面の外傷、骨折、急性歯性感染症などの救急の受け入れも積極的に行っています。

当科は日本口腔外科学会准研修施設に認定されており、専門医2名と認定医1名が専門性の高い診断・治療にあたっています。

Q. むし歯などの一般的な歯科治療は行っていないのですか。

朽名 先ほどお話したように、当科の診療は口腔外科が主体となっていますので、基本的にむし歯や歯周病、ブリッジや義歯などの治療は行っており、かかりつけ医でお願いしています。

Q. そうした中で、2024年度から新しい形での一般的な歯科治療の場を提供されているそうですね。

朽名 はい。障害のある方に対し、全身麻酔下でむし歯などの一般的な歯科治療を行える場を提供しています。

Q. 障害のある人への歯科治療は現在どのような状況なのでしょう？

朽名 県内で障害の程度が軽い方は一般の歯科医院で治療を行うことができますが、中等度から重度の方は治療が難しいことから、富山県歯科医師会に所属する歯科医師が富山県歯科保健医療総合センター（以下、センター）で治療にあたっています。

障害のある人への 歯科治療の課題

歯科口腔外科部長 **朽名 智彦** 医師

Q. 障害のある人への歯科治療には、どんな課題があるのでしょうか？

朽名 障害の特性にもよりますが、口を開けてじっとすることができない、診察台に座ることができない、診察室に入れないなど様々な方がいます。抑制ネットなどで体が動かないようにして治療を行うことがありますが、十分な治療が行えないのが現状です。そのような場合、全身麻酔下で歯科治療を行うのですが、残念ながら県内に障害をもつ方が全身麻酔下で専門的な歯科治療を受けられる施設がありませんでした。

富山県歯科医師会からの打診

Q. そこで、富山市民病院に白羽の矢が立ったのですか？

朽名 はい。富山県歯科医師会の歯科医師やセンターの歯科衛生士が中心となり、障害のある方にも良い歯科治療を行いたいとの強い思いから、当院で全身麻酔下での歯科治療を行えないかと打診を受けました。

われわれ口腔外科だけでなく、各診療科の協力なしでは実現しないプロジェクトでしたので、麻酔科や小児科、精神科の医師に加え、看護師や薬剤師、

事務職員など多くの職種のスタッフと何度も話し合いを重ね、プロジェクト発足から構想に約1年半をかけた2024年10月に1例目の治療が行われました。以降、月に1例のペースで障害のある方の全身麻酔下での歯科治療が行われています。

このプロジェクトの特徴として、歯科治療は日頃センターで担当している日本障害者歯科学会認定の歯科医師と歯科衛生士が行い、抜歯などの外科手術が必要な時は、われわれ口腔外科専門医が担当します。それぞれの専門性を十分に生かした全国的にも珍しい取組となっています。

Q. どのようなスケジュールで治療が行われるのですか？

朽名 現在はセンターから紹介された患者限定となっています。初診の日には障害の程度や特性の確認となります。本人の状態をみて、その日に手術に必要な検査（採血や心電図、レントゲンなど）を行うこともありますが、無理に行うことはありません。また、一日で全部できない方もいますので心配なくとも大丈夫です。

入院は前日または当日になりますが、障害の状態などを含めご家族と相談して決めていきます。手術当日は家族と一緒に病棟の個室で一泊してもらい、翌日の午前中に退院となります。



麻酔科医長 津田 翔 医師

安全な全身麻酔下での治療

Q. 全身麻酔は障害のある人の歯を守るための大事な切り札なのですね。

津田 全身麻酔が障害のある方の歯を守る上で、いかに重要な機会であるかということを再認識しています。ただ、全身麻酔は誰にとっても心配なものだと思いますし、当院を初めて利用される方もいらっしゃるのです。こちらとしては、疑問を残さないよう事前に情報収集しています。

麻酔管理は手術前から始まり、手術中は安全に治療が完遂できるように、心電図や血圧など患者さんの全身状態を常に監視しつつ、手術の進行に合わせて



歯科口腔外科 主査 友山 ひかり 歯科衛生士

麻酔薬の種類や投与量を調整します。手術中だけでなく、術後も患者さんの痛みやストレスを軽減すべく、鎮痛薬などで継続的にコントロールします。そして今後に生かすため、症例ごとの振り返りも大切にしています。

Q. 障害のある人の歯科治療で特徴的なことはありますか？

友山 障害のある方は治療が必要な歯がたくさんある印象です。そのため、全身麻酔では一度に多数の歯を治療するため、治療に使う様々な器具や材料を事前に準備しておくことが必要になります。しかし、全身麻酔の時に初めて口の中を診察する患者さんもあるので、想定外の治療に臨機応変に対応できるよ



東病棟3階 無関 安理奈 主任看護師

うに心がけています。

また、普段なかなか行うことができない歯石除去などを同時に行うこともあります。治療はもちろんですが、お口の中をスッキリきれいにできることは、患者さん家族からとても喜ばれています。

看護師らの献身

Q. 病棟において、障害のある患者さんとの関わりで特に難しいと思われるのは、どういった場面なのでしょう？

無関 全身麻酔に至る前に注射や点滴が必要になるのですが、障害のない方でも煩わしい注射や点滴は、障害のある患者さんにとってはことさらだと思

います。慣れない環境の恐怖や興奮からとっさに手が出てしまう方や、点滴を抜こうとする患者さんもうらっしゃるので、他のスタッフの力も借りながら、安全に手術までの準備を進めています。

コミュニケーションの工夫

Q. 相手に恐怖心を与えないようにするというのはかなり難しそうですね。

矢野 そうですね。障害のある患者さんが、突然大きな声が出たり、とっさに手が出てしまったりというのは、実はごちやうとしてはある程度想定しています。付き添いのご家族もそれらが大変気にされたり、謝られたりするのですが、障害のある患者さんに

とっては防衛反応なのだど理解しています。

少しでもリラックスして臨んでいただけるように、お会いした時から普段から慣れているニックネームでお呼びしたり、好きなものや嫌いなものを知っておいて、会話に役立てたりしています。

患者家族の不安にも配慮

Q. 看護師さんの果たす役割は大きいですね。手術室ではどうでしょうか？

米山 例えば、酸素マスクの匂いに敏感な方など患者さんによって特性も違うので、麻酔経験のある患者さんでしたら、前回の時はどうだったのかなども情報共有するようにしています。患者さんたちの年

齢層は幅広く、お子さんの場合は不安がないように麻酔が効いて眠るまで、ご家族に側についていただくようにしています。

八倉巻 患者さんにはお話ができる方とできない方がいらっしゃいますが、手術についてはご家族も心配されていますので、

手術室への入室方法などをお話しています。具体的に想像できるように分かりやすく説明をして、なるべく不安がない状態で手術に臨んでいただけるよう心がけています。



東病棟3階 矢野の瞳 主査看護師



手術滅菌管理科 米山実香 主査看護師



手術滅菌管理科 八倉巻理沙 主任看護師



手術室

障害のある人の デンタルケアの難しさ

Q. 障害のある人のデンタルケアは、やはりかなり難しいのでしょうか？

友山 障害のある方は自分で歯みがきするのが難しいことが多いのですが、中には家族でもなかなか磨くことができない方もいて、むし歯が増える、歯周病が進行する、結果として歯を抜くしかない状況になってしまいます。そのため、家族だけで問題を抱えず、センターなどの専門的治療を受けられる施設を受診することをお勧めします。

残せる歯をなるべく残す意義

Q. 全身麻酔で歯科治療を行えるようになり、障害のある人のご家族や富山県歯科医師会の先生方の反応はごどうですか？

朽名 障害のある方の家族は入院や手術がちゃんとできるのかなど多くの不安を抱えて来院しますが、退院する時には治療できてよかったと安心されています。

また、センターの歯科医師や歯科衛生士も、今まで全く治療が進まなかった方の治療の範囲が広がったと実感しているようです。障害のある方は入れ歯を使うことが難しく、歯を失うと食べ物や丸飲みするしかなくなるため、抜歯せずに自分の歯を残すことがとても大切になります。

特色ある地域貢献をこれからも

Q. 麻酔科にとっては、また新たな地域貢献となりましたね。

津田 はい。当院の麻酔科医は常勤3名と非常勤2名、富山大学附属病院からの応援も得て、少人数ながらも、産婦人科と連携した「無痛分娩」のような特色ある医療を地域に提供しています。これからも

様々な診療科と力を合わせて、患者さんの手助けとなるべく努力していきます。

障害のある人にも 一定の歯科治療の機会を

Q. 最後に、今後の展望などメッセージをお願いします。

朽名 初めての場所や病院は障害のない方でも緊張します。障害のある方やご家族にとってはさらに心配や不安が強いかと思いますが、当院のスタッフ一同がサポートさせてもらいます。われわれも初めての取組であるため、皆さんと一緒に富山県の治療体制を作っていければ良いと考えています。

障害というのは本来誰にも起こり得るものです。県内で生活する障害のある方が一定レベルの歯科治療を受けることができ、歯科治療に困ることが少なくなれば良いと願っています。



外来診察イス

病棟の個室が増えました

東病棟5階の一部を改修し、以前は2人部屋だった病室から個室6室を整備しました。個室には新たにトイレを設置し、クロスや水回りもきれいになりました。感染症対策の面からも利便性が高まりました。

これからも患者さんのニーズに寄り添った入院環境の向上に努めていきます。



Message

院長退任の挨拶

家城 恭彦



令和6年4月に院長に就任し、あっという間に2年の月日が流れ、この3月をもってめでたく定年退職を迎えることとなりました。組織の先頭に立てるような器でもないこの自分が、曲がりなりにも2年間を勤め上げられたのは、ひとえに支えてくださった多くの方々のおかげであり、退任にあたり心から感謝申し上げます。

自分なりに目指したのは、職員や患者さんの言葉に耳を傾け、その傍らを同じ歩幅で歩く身近な院長でした。毎朝発信する「院長の一言」は、職員との距離が少しでも縮まればとの思いで書き始め、「院長回診」は紹介患者さんに良い経験をしてお帰りいただきたいとの思いで、ともに2年間休まず継続してきました。些細なことではありますが、凡事徹底できたことはささやかな喜びです。

現在、当院は苦しい経営状況にありますが、断らない救急をはじめ地域から期待される医療を愚直に行っていることは、当院の誇りだと思っています。これもみな、現場で日々奮闘する職員の頑張りのおかげであり、それに報いるためにも働きやすい環境を整えることが院長の仕事だと思ってきました。少しでもそのお役に立てたとしたらこの上ない喜びです。定年前最後の10年間を当院で過ごせたことに感謝し、ここで出会いお世話になった全ての方々にお礼を申し上げて、お別れのご挨拶といたします。ありがとうございました。

ふれあい健康講座

申し込み・参加費は不要です。会場へ直接お越しください。

- 開催時間／各回13:30～(30分程度)
- 会場／月曜：まちなか病院(鹿島町2丁目)、水曜：まちなか総合ケアセンター(総曲輪4丁目)、金曜：市民病院(今泉北部町) ※曜日によって会場が異なりますのでご注意ください。

4 APRIL

- 6月 知っておきたいお薬の話
～ポリファーマシーとは?～
- 8月 緩和ケアって何をするの?
- 10月 糖尿病予防のための
ミラクルマニュアル
- 13月 腎臓を守ろう
- 15月 その尿取りパットは
合っていますか?
- 17月 気をつけたい高齢者の食事
- 20月 それって、認知症?
- 22月 ★ママと赤ちゃんのための
産後エクササイズ
- 24月 エコノミークラス症候群って何?

5 MAY

- 8日 金 フットケア
～足からの健康～
- 11日 月 脳卒中のお薬について
- 13日 水 がんについて知ろう
- 15日 金 肩こりについて知ろう
- 18日 月 フレイルを予防するための
食事のポイント
- 20日 水 子宮頸がんに関する
ウイルスのお話
- 22日 金 大腸がんの見つけ方
- 25日 月 アルツハイマー型認知症について
- 27日 水 ★ママと赤ちゃんのための
産後エクササイズ
- 29日 金 高血糖が危ない
血糖値ってなぜあがるの?

6 JUNE

- 1日 月 歯と口腔シリーズ I
ちょっと気になるお薬の話
(薬と歯と口の関係)
- 3日 水 歯と口腔シリーズ II
口腔ケアと健康寿命
- 5日 金 レントゲン検査の種類について
- 8日 月 腎臓を守ろう
- 10日 水 超音波検査(総論)について
- 12日 金 歯と口の健康シリーズ III
栄養士が話す
～おいしく食べていますか～
- 15日 月 食中毒を防ごう
- 17日 水 糖尿病は万病のもと
糖尿病の合併症ってなに
- 19日 金 災害時におこる病気について
～準備と対応～
- 22日 月 便秘のお話
- 24日 水 ★ママと赤ちゃんのための
産後エクササイズ
- 26日 金 歯と口の健康シリーズ IV
お口の体操
～食べる力を鍛えよう～
- 29日 月 アルツハイマー型認知症以外の
認知症について

※講座内容は変更になる場合がございます。

★の講座の参加は、事前に電話をお願いします。(持ち物等をご案内します)
TEL.076-422-1112(ふれあい健康講座担当まで)

The Idea of the Toyama City Hospital

富山市民病院の基本理念

使命 MISSION

富山市民病院の存在意義

私たちは医療を通して皆様の健康を守り、豊かな地域づくりに貢献します。

価値観 VALUE

我々が何を大切にしていくなかのキーワード

- 信頼 安全・安心、満足、透明性
- 思いやり やさしさ、やすらぎ、おもてなし、親切
- 良質 技術、知識、向上心、科学的
- つながり 連携、チームワーク、わかりやすさ
- 俊敏 迅速、効率的、的確

展望 VISION

将来どのような姿を目指すのか

地域医療に不可欠な信頼される中核病院となる

- 救急医療、災害医療に強い病院になる
- 質の高い急性期医療を担う病院になる
- シームレスな地域医療を築き安心を提供する病院になる

富山市民病院マガジン [きよら] / No.120 : 2026年4月号

発行 富山市立富山市民病院 広報委員会

〒939-8511 富山市今泉北部町2-1

TEL. 076-422-1112 FAX. 076-422-1371

<https://www.tch.toyama.toyama.jp/>



富山市立富山市民病院



日本医療機能評価機構